

病院ボランティアを募集しています！

“病院ボランティア”とは

病院内で医師・看護師・その他の職員と協力して、患者様が少しでも良好な環境のもとで安心して治療ができるように、自発的に無報酬で奉仕することです。

活動する日

平日の午前8:30から午後4:00の間で、都合の良い時間帯。
週1回以上で、1回の活動時間はおおむね2時間以上。

活動内容

- 患者様の案内（各診療科、放射線科、検査科等へ）
- 車椅子利用者への介助、誘導
- 花の水かえ
- 本棚の整理
- 掲示物の整理
- 屋外のごみ拾い、草取り
- その他 できること



お問い合わせ、お申込みは事務長、看護部長へどうぞ



外来診療担当表



診療科	受付時間	月	火	水	木	金	
総合診療科	午前 8:30~11:30	1診 (予約のみ)	太田 診療10:00~	太田 午後あり	太田 午後あり	坪野	坪野
		2診 (予約のみ)	眞水	佐藤	新潟大学 隔週	眞水	佐藤
	1診火・水午後 13:00~14:30	3診	第1.3.5 坪野 第2.4 佐藤	眞水	坪野	佐藤	眞水
外科	午前 8:30~11:30	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	
脳神経内科 (完全予約制)	午後 13:00~14:30					第2.4 木島 診療13:30~	
眼科	午前 8:30~11:30	石川 診療9:00~				石川 診療9:00~	
婦人科	午後 13:00~15:00					新潟大学 診療14:00~	
耳鼻咽喉科	午後 13:00~15:00		新潟大学 診療13:30~			新潟大学 診療13:30~	
皮膚科	午前 8:30~10:30		濱田 診療9:00~	第1.3.5 石田 第2.4 濱田 診療9:00~			
整形外科	午前 8:30~11:00		労災病院 予約のみ 診療10:00~		労災病院 診療10:00~		

●外来の予約変更のお電話は、平日午後2時以降にお願いします。

柿崎病院だより



発行日:令和2年2月1日
発行元:新潟県立柿崎病院
〒949-3216
上越市柿崎区柿崎 6412-1
TEL 025-536-3131
FAX 025-536-3136
ホームページ <http://kakizaki-hp.niigata.jp/>

私たちに出来ること

薬剤部長 青柳 和代



日ごろ、柿崎病院をご利用下さり、大変ありがとうございます。
昨年4月よりこちらで勤務させていただいています。県立病院の薬剤師として、30年間務めています。今は南魚沼市に移譲された、県立六日町病院を初めとし、柿崎病院を含めて6つの県立病院を経験してきました。
同じ県立病院でも、求められている機能はそれぞれ異なり、各病院が取り組む業務も異なっています。私が柿崎病院に転勤してきて驚いた業務に、外来患者様の残薬確認があります。みなさん、現在服用されている薬は、いつ頃から服用されていますか？多くの患者様は、もう何年・何十年も続けておられることでしょうか。きちんと服用しているつもりでも、時に服用忘れもあり、長い薬歴を重ねれば重ねるほど薬が余ってしまう（残薬）こともあるかと思われます。

厚生労働省では、かかりつけ薬局に、患者の残薬を確認し、処方医にその情報を戻すことにより、余った薬の有効活用で医療費を削減しようと進めています。日本が世界に誇るいわゆる『もったいない精神』の実践です。服用忘れなく薬を使用してもらうことが、私たち薬剤師にとっては、第一の支援業務ですが、時に残薬が出た場合にも対応します。

本来であれば、残薬確認はかかりつけ薬局の業務ですが、当院では院内の薬剤部でも医師から依頼があれば、対応しています。薬剤師が作成した残薬報告書を医師が確認し、次回再来日までの日数から残薬日数を差し引いて、処方日数を決めています。このような取り組みにより医師や看護師の負担が軽減されています。また、医療費削減にも貢献しています。このことは、当院の規模だからこそ実践できています。大規模病院では難しいと思われます。

それぞれの病院に求められ、実践できることを、本質を見極めながら取り組んでいく。貴重な医療資源（人・薬）を大切に扱う。その積み重ねが未来を担う可愛い子供や孫たちの負担軽減になる、と信じて微力ながら全力投球しています。

残薬に限らず、薬についてご不明な点がございましたら、かかりつけ薬局のほか当院薬剤部でもご相談に乗りますので、お気軽にお声掛け下さい。

柿崎病院臨床検査科です

臨床検査技師長 小池朋子

臨床検査科では、病気の診断や治療効果を確認するために様々な検査を行っています。

臨床検査は大きく分類すると、検体検査と生理検査があります。

検体検査は皆さんから採取した血液、尿などを用いて行う検査です。様々な検査機器を用いて検査しています。

生理検査は直接皆さんに接して行う検査で、心電図検査、呼吸機能検査、超音波検査などがあります。

臨床検査科では、皆さんの病気の診断や治療に貢献できるよう「正確な測定結果をより早く報告できるように」努力をしています。



生化学自動分析装置



血球計算機



防ごう！冬の感染症

インフルエンザ、感染性胃腸炎の流行シーズンを迎えています。

どちらも子供や高齢者は重症化しやすいので、感染予防策を徹底して、感染を防ぎましょう！



インフルエンザ

<かからないために>

- ・人混みを避け、外出後は必ずしっかりと手洗いをする。アルコール消毒も効果的。
- ・ふだんから十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、免疫力を高めておく。

<かかってしまったら>

- ・早めに医療機関を受診し、処方された薬は医師の指示に従って服用する。
- ・咳やくしゃみが出たら、周りの人にうつさないためにもマスクを着用する。



感染性胃腸炎

<かからないために>

- ・食事前、トイレの後、調理前後はしっかりと手洗いをする。2度洗いが効果的。
- ・食品は中心部までしっかりと加熱し、調理器具は洗浄・消毒を徹底する。

<かかってしまったら>

- ・嘔吐、下痢、腹痛などの症状が通常は2~3日間で回復するが、子供や高齢者は重症化したり、吐いた物を誤って気道に詰まらせてしまうことがあるので注意。
- ・ウイルスの飛散を防ぐため、便や嘔吐物は注意して処理する。消毒は塩素系漂白剤を使用する。



地域連携パスと「ONE TEAM」

リハビリテーション技師長 藤澤明彦

令和になって初めてのお正月をどのようにお過ごしになりましたでしょうか。正月恒例の実業団駅伝や箱根駅伝の観戦は、私の正月の楽しみの一つです。これを観て今年も頑張ろうという気持ちになります。

昨年、日本で開催されたラグビーワールドカップで日本代表チームが大活躍し、「ONE TEAM(ワンチーム)」という言葉が流行語大賞になったことは記憶に新しいことでしょう。駅伝やラグビーに限らず、一つの目標に向かって全員が一致団結して頑張る姿を見ると、いつも感動し勇気をもらいます。このような「感動」や「勇気をあたえる」ことはできませんが、医療の現場ではチームで取り組むことがよくあります。最近では施設の垣根を越えて地域全体が一つのチームとして取り組んでいるものもあります。その一つが「上越脳卒中地域連携パス」や「上越大腿骨近位部骨折地域連携パス」です。ひとたび脳卒中や大腿骨近位部骨折(足の付け根の骨折)になると、リハビリを含めて治療には長い時間がかかります。治療を一つの医療機関だけが担うのではなく、それぞれの機関の強みをもち寄って「ONE TEAM」になるのです。地域連携パスでは急性期、回復期(リハビリ期)、生活期へと駅伝の襷をつなぐように、患者さんやご家族の願いをつないでいきます。年に3回関係者が一堂に会して話し合いが行われ、よりよい連携がとれるように顔の見える関係を作っています。柿崎病院はこれからも他の機関や施設とチームを組み、医療を通じて頸北地域のみならず上越地域の皆様の安心した暮らしをお守りします。

昨年11月に上越地域にある県の事業所職員のバレーボール大会がありました。その大会で柿崎病院チームは優勝することができました。柿崎病院には部署や職種に関係なくみんなで取り組もうとする熱気があふれています。柿崎病院は決して大きくありません。しかし、この病院だからこそ行えることがあります。今年も部署や職種を超え「ONE TEAM」となって、患者さんやご家族の願いに応えていけるよう努めてまいります。

